

001 健

心臓を患って入退院を繰返し運動制限、食事制限を受けているので行きたい所へも行けず量や塩分の関係で外食できない。元々、大食いで、外で食事する時は大盛り+1品を注文していたのでつらいものがある。

それにもまして辛いのが水分制限でみそ汁など食事の時に取る水分以外は500ml〜700ml。これは非常に辛いものがある。病院にいる時は我慢できても、家にいるとついつい冷蔵庫に手が伸びてしまう。

お陰で入院中は売店の本の種類が少なかったこともあるがもっぱら旅行雑誌やタウン誌、B級グルメ誌などを読んで気を紛らせていた。先日見たTV番組によれば学校の読書感想文の対象は別に小説である必要はないとの事。そこで小学生にタウンページ、地図帳、時刻表の中から一冊選び感想文を書かせるという番組をやっていた。結果として普段じっくり見ることなどない本の中に興味のあるものを発見し自分の生活とからめて発表しているところがなかなか面白かった。前々号だったかTomy Jr. さんが、感想文が小説主体なので自分の読む本だと違和感があるような事を書いていましたがそんな事はありません。雑誌、学術誌でもそれなりに感想はあるものであり、こんな本があるのか、こういう本も読んでいるんだということがわかって結構面白いです。ということで小説ではないものが多く載っています。(言訳にしては前振りが長かったか?)

ところで今、はまっているのが昭和30年代もの。去年は ALWAYS 三丁目の夕日がヒットしましたが大分前から昭和30年代をモチーフにしたテーマパークやお店が流行っている。収集癖のある自分としては手元に置いておきたいものは数々あったが保管場所の関係で手放してきたものは数知れず、特に家を建替えたときは大処分せざるを得ず淋しい思いをしたものだ。だからこそ残存するものがお宝になったり、懐かしみを覚えるのだと思う。今回の読書リストの中にも昭和30年代を特集したものが多くなったのは過去を振り返るというよりは自分史にもつながるものが多いせいもある。自分史的なものとしては自分の両親や先祖、郷土史にも興味があり本籍地である生麦(横浜市鶴見区)近辺の郷土誌なども結構読んでいます。うさおさんのご近所トマソン隊はまさしく興味の対象がかぶっているので毎回楽しく読ませてもらっている。自分としては戦前・戦後の生麦、鶴見の暮らし振り、親戚などの関わりを調べDOKUGAKUで紹介してみたいと思っているのだが。

	作品名	出版社	著者	コメント	評価
1	文藝春秋 2006/3月号	文芸春秋社 760円		134回芥川賞掲載号 「沖で待つ」 絲山秋子	
2	昭和モダンの器 たち	平凡社 コロナ・ブックス 1680円	佐藤由紀子	酒は飲めないもののお茶とかコーヒーは自分の気に入った器で飲みたいもの。最近、切子やガラス器のお気に入りが欲しくていろいろお店を回っている。	
3	谷内六郎 昭和の思い出	新潮社 1365円	谷内六郎	週刊新潮の表紙絵と作者が綴る「表紙の言葉」を中心に初期の作品、手がけた仕事を紹介したビジュアル本。夫人や家族、編集者が語る作者のエピソード、評価など読む部分も多く面白い。創刊から描き続けた表紙絵は実に1353枚。昭和の子供と原風景、心象風景を交えて描いた作品はメルヘンチック。	

4	夜市	角川書店 1260円	恒川光太郎	第12回日本ホラー小説大賞受賞作 帯には選考委員の荒俣宏・高橋克彦・林真理子の賛辞が添えられている。誉めすぎの感はあるもののホラーというよりは幻想と哀愁感のある作品となっていて異色。「夜市」とは何でも売っている人知れず開かれる不思議な市場。ルールがあり①何も買わずに市場をでることはできない。②市場へは3回までしか立ち入れない。 この辺は「3つの願い」の変形か？ 幼いころ夜市に迷い込んだ裕司は弟を代価に置き去りにし「野球の才能」を手に入れるが野球部のエースとして成長した裕司は罪悪感から弟を買い戻すため再び夜市を訪れる。結末は記さないが夜市の風景は「小野冬美」の世界に通じるものがあり異界の風景・異形の者の姿が頭に浮かぶ。 他に書き下ろし作品「風の古道」を収録。 現世と隣り合わせて連なり死者の旅する古道というのが印象深い。	
5	笑芸人Vol.17 2005年冬号	白夜書房 2400円	高田文夫編	季刊本。お笑いに関する情報でんこ盛り。その情報量は資料的といえるほどマニアック。 特集、対談、イベントの紹介、コートの劇場情報、切り抜き情報などすべては読み切れない。 特集「ここが笑いの^{ギャグ}Gスポット」 ライブ・劇場のランキングとここで育った芸人・こだわりのコートを熱く紹介。 「竜平会vs東会」爆笑CD付き	
6	良平のわが人生	DANVO 1575円	柳原良平	本書は神奈川新聞に2004年8月4日～10月6日まで掲載された「わが人生柳原良平」(全59回)を単行本化したもの。 内容は既に発行された本で知っている事ばかりであったが船を愛し、横浜の発展に寄与してきた著者の本となれば買わずにはいられない。 広島に「アンクル船長の館」という氏の博物館がある。本来は横浜にあるべきと思うが一民間人であることから横浜市のバックアップが得られず広島にということになったらしいが残念なことではある。	
7	あきれたグルメガイド バカ盛り伝説	朝日コミュニケーションズ 1239円	あきれたグルメ 探険隊	大盛りというのは普通盛りの5割増し以上というのが自分の感覚だ。せこい店や人によっては大盛りだか普通盛りだかわからないことがある。 器の色とかでレジの人がわかるようにしているところもあるが見た目で判断できないようなのは大盛りではないと言いたい！バカ盛りはそんな疑問など吹っ飛ばすような常識はずれの大盛りのこと。 この本は首都圏のバカ盛りを提供する店とメニューを紹介した本。	

8	大阪人 2006/4月号	大阪都市協会 580円		毎月1日発行 特集「転変大阪城」 豊臣・徳川・近代・平成の大阪城の転変について 特集。	
9	東京人 2006/04月号	都市出版 900円		特 集「神楽坂」 より深く、より奥へ 小特集「1930年代若き芸術家たちのアトリエ」 池袋モンパルナスを歩く	
10	喫茶&スナック 1981年創刊号	旭屋出版 古500円		喫茶店・COFFEESHOP・スナック・パブの雑誌 店舗経営はもちろんのこと高度な知識、教養を提 供目的で創刊。自分はコーヒーも好きだが器や用 品、店の看板、マッチなどのデザインにも興味があ るので買ったもの。	
11	いい歳旅立ち	講談社文庫 560円	阿川佐和子	「たけしのTVタックル」の司会者。色々な雑誌に書 いてきた生立ちやら家族周辺、友人関係、仕事関 係で起こった出来事を綴ったエッセイを文庫に収 録したもの。見た事、起きた事に対して素直に思っ たままを書いているところに好感が持てる。雑誌の コラムに書かれたものなのでどこから読んでも良く 読みやすい。	
12	花まんま	文藝春秋 1650円	朱川湊人	「花まんま」は133回直木賞受賞作品。生まれ変わ りを題材に兄妹の絆を描いた作品。本編のほか五 つの短編を収録。幽霊、不思議な生き物、人を死 にいたらせる呪文、見知らぬ女性との交流など不思議な世界を子供の視点で昭和の大阪の風俗、世相 にからめて描いたもの。子供の時の不思議体験と いうのは誰でも一つ二つは持っているものであるが 古き時代こそ不思議体験に似つかわしいかも知れ ない。	
13	わくらば日記	角川書店 1470円	朱川湊人	昭和30年代の風景、事件をエピソードに取り入れ、 過去を見る能力を持つ少女とその妹の周辺に起き た5つの事件。特殊な能力を持つことの是非。 装丁は切り絵風のイラストで表は千住のお化け煙 突、裏は東京タワーを望む風景、それぞれ短編の 頭に昭和の懐かしい風景が添えられている。共通 しているのはその風景を見ている姉妹が点景として 描かれていることであり、その姿がいつも後姿であ るところに哀惜感が感じられ作品とマッチしている。	
14	春朗合わせ鏡	文藝春秋 1700円	高橋克彦	「だましゑ歌麿」、「おこう紅絵暦」の姉妹編。 春朗は北斎のことで7編の捕物を連作シリーズとし て纏めたもの。浮世絵、江戸風俗研究家でもある氏 の実人物のイメージにからめたキャラクター作りは 巧み。ちょっとしたTV番組の捕物帳の如く安心して 読める。自作「北斎隠密説」につながる描写も。	

15	のんびり列車の旅	KKベストセラーズ 500円	一個人編集部	月間「一個人」の特別編集本 寝台列車、ローカル列車、駅弁ほか鉄道旅行の楽しみをまとめた本。四六版でコンパクトながらカラー写真もふんだんに使っていてなかなか楽しい。コンビニで売ってます。	
16	日本タブー事件史	宝島社文庫 680円	別冊宝島編集部	「言論の自由」と言う割には新聞・TVなどの大メディアが敢えて報道しない「禁断の領域」。保身・利害を考慮してのものである。新潮や文春、写真週刊誌などが告発記事としてスクープしたりしているが読めば読むほど闇が深いのに気付かされる。この本は在日、ユダヤ、警察、皇室、禁断の団体など報道されない禁断の事件。表面化した事件の舞台裏を最近の事件について多方面からの関係者の聞き取りを元に取りまとめたもの。	
17	東京・駅別大調査 旨い！立ち食い そば・うどん	小学館文庫 500円	東京路傍の面党	最近、立ち食いの店といえど椅子席を設けているところも結構あるようになった。特に駅の構内などは女性客も利用しやすくして売上を伸ばす意図もあると思われる。編集が「路傍の麺党」という苦肉な名前なのはいわゆる蕎麦屋とは異なるという意味合いだろう。昨今は駅のホームでも個性的な味の店もあり、値段を考えるとともに蕎麦屋でそばを食べる気がしない。高いお金を払ってでも美味しい蕎麦を求める人も多いのも事実だが。	
18	ALWAYS 三丁目の夕日 夕日町オフィシャルガイド	(株)メディアファクトリー 1400円		観に行った映画・劇・展覧会の公式ガイドブックは必ず買うのが習慣になっている。 もちろん映画のプログラムも買いました。	
19	行くぞ！山歩き	筑摩書房 1680円	平野恵理子	イラストレーター＆エッセイストである著者は幼い頃から家族ぐるみで親しんできた山歩きを今なお自分のペースで楽しんでいる。その著者が初心者のために書いた山行計画の立て方、山の道具、山での食事、マナー、初心者でも楽しめるコースをいたれりつくせりの山歩きガイド。 著者の山での楽しみかたなども楽しいイラストをふんだんに使って紹介していて初心者ならずとも読物としても面白い。	
20	サザエさんをさがして	朝日新聞社 1000円	朝日新聞be編集部	「映画で見る昭和雑学館」なるビジュアル誌があったがこれはそのサザエさん版。4コマ漫画の中にある昭和の世相、道具、ギャグの内容などにスポットを当て古き時代を考察、コラムの形にまとめたもの。ブロンソンを扱ったマンダムなどのギャグが可笑しい。	

21	昭和レトロ商店街	早川書房 1680円	町田 忍	副題が「ロングセラーの知られざるヒストリー」「読んで懐かしい商品たち」「見て楽しいレトロなパッケージ」と3つもある。著者が収集を続けている多岐にわたるコレクションを元に38のコラムに纏めている。商品やパッケージなどはカラー写真・図版をふんだんにおもしろエピソードを展開。コーラやコーヒーなどの飲料水、菓子、食品、薬品など懐かしいものから今なお売られているもののデザインの変化を見るのも面白い。巻末には泉麻人との対談あり。著者はご存知トマソンともゆかりのある人物なのでその考察とウンチクぶりはたいしたもの。	
22	ニッポン駅弁大全	文藝春秋 1500円	小林しのぶ	駅弁が一番美味しいのはやはり電車の中。しかしながら旅もおいそれとは行けないのでデパートの駅弁大会はどこも盛況だ。特に新宿京王百貨店の新春恒例の催しは40回以上を重ね、人気の駅弁のほか、新作のお披露目にも活用されている。お茶のペットボトル「新・一(はじめ)」で駅弁のフィギュア24種おまけ付きに触発されて買ったもの。この本は弁当の中味、容器、掛紙がカラーで鮮明に掲載されていて解説もしっかりしている。見応え、読み応え充分。	
23	ブレードランナーの未来世紀	洋泉社 1680円	町山智浩	80年代に狂い咲いた米映画10本のカルト・ムービーについて制作背景、メイキング、作品の中のセリフ、小道具、エピソードを解説・紹介。作品への思い入れが深くなる一冊。冒頭気になるセリフ「2つで充分ですよ。わかってくださいよ！」の怪セリフの謎もわかる。	
24	モダン心斎橋コレクション メトロポリスの時代と記憶	図書刊行会 2205円	橋爪節也	心斎橋の歴史をモガやモボが闊歩した戦前のモダンな時代を中心に写真、絵はがき、広告、絵画、マッチラベル、チラシ、雑誌、等々…を博物学的かつ趣味的に紹介したもの。関西のこういって本は東京近辺ではあまり販売されることが少ないので稀少。	
25	旅の手帖 2006/03月号	交通新聞社 580円		●終着駅からの旅 ●元気な駅弁	
26	自遊人 2006/03隔月号	(株)カラット 680円		入院中にCacco氏が差し入れてくれたもの。 ●神田神保町 ●器の旅 服装は青・緑・茶色系統を選ぶことが多いせいか焼き物では織部が結構好きだ。実質的なものが多いので値段は比較的安く設定しているような気がする。地味ながら白を大胆に使って明るさ・勢いを感じさせるものは特に好きだ。	

27	時を越えて遊ぶ、大人の時間旅行ガイド！！ 荷風！vol. 7	にちぶん MOOK 880円		前記の自遊人と同時期に発行されていたのでこっちの方が希望だったんだがとCacco氏にわがまを言ってしまいました。 この雑誌、お気に入りの理由は昭和からの流れを意識した装丁、特集を組んでいるところ。誌名は散歩好きで知られた永井荷風から取ったもので昭和風景をジオラマで表現した表紙には荷風氏の姿が毎号登場している。 ●特集「神田神保町、御茶ノ水の究極」 神田神保町といえば概ね文士がらみ、古書店珈琲店、レストランの老舗の紹介と決まっているのだが切り口が変わるとそれなりに発見のある読物になっている。	
28	ダ・ヴィンチ 2006/03月号	メディアファクトリー 450円		これもCacco氏の差し入れ。 本の情報月刊誌。 特集 ●夜明け前、がむしゃらに泣ける本&コミック 「絶版書は読者の力で復刊できるのか！？」 復刊ドットコム(読者参加型の復刊応援サイト) 復刊を望む書き込みが100人を超えたところで出版社へ働きかける方式だとか。	
29	マドンナ	講談社文庫 620円	奥田英朗	サラリーマンの中間管理職の悲哀を5つの短編で綴ったもの。年齢の設定は40代。 「マドンナ」新人部下のOLへの恋心。 「ダンス」ダンサーになりたい息子 「総務は女房」異動先の腐敗した慣習。 「ボス」切れ者女性管理者への反発。 「パティオ」閑散としたビル街で読書する一人の老人に父親の姿を重ね合わせる。著者はサラリーマン生活はしたことがないとのこと。鋭いところと「そこまではね」という部分もあるが共感ができる作品。	